

“ふじのくに”士民協働事業仕分け結果（事業別個表）

| | | | |
|------|---|-----|------------------|
| 事業番号 | 2 | 事業名 | ふじのくに健康増進計画推進事業費 |
|------|---|-----|------------------|

1 基本情報

| | | | |
|--------|------------|-----|-------------|
| 実施日／班名 | 10月13日 第1班 | 時間 | 11:21～12:28 |
| 担当課名 | 健康福祉部健康増進課 | 事業費 | 78,000千円 |

2 判定結果

| 結 果 | | 県民評価者 判定内訳(人) | | | |
|----------------------------|------|-----------------------------------|----|--------|----|
| 県の関与必要 (見直し・縮小) | 判定区分 | 県の関与不要 | 0 | | |
| | | 県の関与必要 | 29 | 見直し・縮小 | 19 |
| | | | | 現 行・拡充 | 10 |
| | 判定理由 | 結果と同一区分を判定した県民評価者の主な判定理由（人、複数回答有） | | | |
| | | 県の役割(市町、関係団体、県民との役割分担)を見直すべき | | | 11 |
| | | 事業の効率化を図りコストを縮減すべき | | | 8 |
| 民間委託を進めるべき | | | 8 | | |
| 事業効果の把握・検証方法や目標の設定方法を見直すべき | | | 4 | | |
| 他の事業との関係を整理すべき | | | 3 | | |

3 具体的な見直し・改善策又はその他意見

【県の関与必要（見直し・縮小）】

- ・健康寿命日本一は素晴らしいと思います。8020 はもっと周知徹底(年齢的に早めに)したほうが良いと思います。事業の効率化は、ボランティアの活動にも期待できると思います。長野県のがん患者が少ないのは、保健師さんの活動に負うところが大きいそうで、静岡県の場合はどうでしょうか？特に都市部ではもっと活躍する場があるように思います。
- ・とてもよい事業で、これも県が啓蒙活動に関与するので、気になったのは「いきいきフォーラム 21」の組織が人件費の確保が必要なものなのか。民と官は連携する必要があると思いますが、県の財源をもう少しよく考えてみた方がよいと思いました。
- ・主なターゲットが40～64歳になっていますが、40～60代を健康に生きるには20～30代の食生活が大切では？50～60代になって急に病気になるのではなく、若いときからの悪い食生活が原因だと思う。
- ・民間委託を積極的に進め、費用を抑えながら効果を高めることを目指してください。
- ・既にある組織(いきいきフォーラム)の活用自体が目的化しないように見直して欲しい。NPO へ任せる段階まで来ているのではないのでしょうか？
- ・県西部での啓発をさらに充実させてほしい。展開をスピードアップしてほしい！予算が大きいせい科科目、内訳が大雑把になっている印象。もっと細かく内訳を分析することで、様々なムダを省けるのではないかと感じた。
- ・健康寿命日本一は素晴らしいことで、これを維持、伸ばしていくために重要な事業だと思います。費用対効果をしっかりと見つつ、ブラッシュアップをして、積極的に推進してください。

- ・5本の事業すべてにおいて計画が練られているのはいいと思う。継続して更に結果を残して欲しい。
- ・試験的にやる所は縮小すべき。その上で県全体に広げて欲しい。
- ・平均地域より医療費マイナス100万円/年はすばらしい効果を出せていると思う。
- ・複数事業を効率的にできないか、検討の余地があるかと思う。
- ・無関心層は私の周りにもいます。がんばって事業を進めてください。
- ・「しずおか健康いきいきフォーラム21」の組織の見直しが必要と思われます。
- ・健康増進のプロジェクト名として「ふじ33プログラム」や「8020運動」等、意味があって覚えやすいので、とてもよいプロジェクト名だと思います。ただ、「ふじ33プログラム」は西部地区では実施していないので、是非県下全域で行っていただければと思います。
- ・組織が明確でなく、実施内容が実行に移される機会が少ない(参加者)ような気がする。組織の大きさに比較して、効果が少ない。
- ・県東部地区に高血圧症有病者、肥満者、習慣的喫煙者が多い具体的対策を強めてほしい。
- ・民間活力の組織(しずおか健康いきいきフォーラム21)への負担金を民間(NPO)に委託したら。人件費の削減。
- ・無関心層にいかに健康づくりの重要性を認識させるかが重要。
- ・実際に医療費の減少という形で成果を確認する必要があると考える。医療費のデータを入手できるしくみを作ってほしい。
- ・熱海市に住み、沼津市の会社に勤める働き盛り世代である立場では、市の取組、企業の取組がダブったりどちらにも属さなかったりして健康に関するサービスは使いにくいと感じている。県にはそういったバランスの悪さを調整する役割を果たしていただきたいと思います。
- ・県全体で生活習慣病に取り組んでほしい。静岡県のラジオ体操を持つてはどうか。
- ・歯科医に歯のケアをしていただいています。保険にできたらいいと思います。8020も生きてくるのでは。低学年のときから学校でフッ素の強化をしてほしいと思います。
- ・「しずおか健康いきいきフォーラム21」のあり方を見直し、民間にお願いできるものはする。組織の見直しを！NPO団体の活用を！人件費が多い！
- ・地域性がちがうことがあり、静岡県は政令指定都市が二つあり、すでに市町(民他含む)に大方まかせる方向にした方が、情報もとれるのではないかと？広報も有利に広がるかも。
- ・メタボという言葉が一般的に知られるようになったのも公的なPRによることが大きいと思う。下身体、足腰を強くすることでかなり年齢が重ねられてからも健康でいられるということを聞きます。要介護にならないためにも、もっとこの点に県としても力を入れてください。
- ・健康は一に運動二に食事と言われます。最後はクスリですが、健康づくり事業は、また環境・安全事業は大きな組織(県)で推進すべきと思います。大きな組織で県民に対し共通認識・共通目的を持って行動することが最良だと思います。但し民間にまかせられるものは民間にまかせ事業費に占める人件費の出費を押し直接経費にあてるべきと思います。
- ・総じて疾病者の多い県東部地区の市町に対し、さらに重点的な改善促進を働きかけることはしていないのか？ただ、お達者度については必ずしも県東部が低いわけではない。要因分析をさらに進めたらどうか。もちろん県全体の平均を上げることが県の役割ではあるが、市町に課題解決の権限を移譲するのも方法論としてあってよいと思う。
- ・静岡県民の平均寿命は本事業開始前から高かったのではないかと？事業開始前のデータはないか。
- ・自分も健康長寿を目指したい。食育推進事業で勉強させてもらっており、親しみを感じた。
- ・資料を見ると、よく分析ができていてすごい。メタボリックを改善させるためには、例えば予備群が会社や市町にいれば、何かペナルティのようなものを課すことも考えられるのでは。

【県の関与必要（現行・拡充）】

- ・ふじのくに 33 プログラムの市町での展開が少ない。又年齢の主体が 40 才～64 才になっているが、年齢の範囲をもっと上げるほうが良いと思う。
- ・2010 年度の日本の医療費が過去最高の 37 兆円である。本県が健康長寿日本一を維持することが「ふじのくに健康増進計画」を推進することで医療費の抑制につなげていく為に必要であり、又、「ふじのくに歯科保健対策」は健康寿命の延伸に大きく影響し、県は広域的・専門的な見地から更に情報提供や助言に強化されたい。
- ・「ふじのくに 33 プログラム」を広域的（西部）に開発と普及をしてください。
- ・「しずおか健康いきいきフォーラム 21」を民間に委託されたいと思います。
- ・幼児から年寄りまで年齢に合わせた内容を充実してほしいです。
- ・市町国保（組合）の健診率の格差に対して行政の啓蒙活動が足りてないのではないか。最終の医療費の減少につながらないか。
- ・健康は全ての人に必要なことです。民間や各市町村と連携して県民の健康づくりを推進することは大切なことだと思うので、今の計画でとりあえず進めていってもいいのではないかと思います。
- ・東部地域の健康状況には驚きました。これは、東部の各市町と一緒に対策していくことが大切と感じました。
- ・生活習慣の改善という点で働き盛りになってからでは遅いと思うので、早い時期、小学生時代から食生活、運動等の大切さをもっと教え込んだらいかがでしょうか。
- ・県全体に対する健康対策を今後もお願いします。
- ・生活習慣病は 40 代から急になる病気ではありません。20～30 代の無理な食生活や不摂生が結局 40 代以降の健康の崩れになります。是非生活習慣病対策の年齢幅をもっと若年層まで見ていただけると、更なる健康対策になるのではないのでしょうか。